御嶽山の噴火災害と富士山の宝永大噴火

国立国際医療研究センター病院
副院長
簑和田　滋

歴史もの読本とトレッキング，軽登山を初めて10年余りになります．昨年９月初めに腰，膝の故障をおして乗鞍岳の剣ヶ峰（3026m）に登ってきました．2700mまでバスです．残念ながら山頂は視界不良でしたが大勢の人出でした．同じころ，富士山宝永大噴火の実録を読んでいました．山麓東側に広がった大規模自然災害でした．読み終えた直後に，御嶽山の噴火災害が発生しましたので報道にくぎ付けにされました．宝永大噴火と今回の御嶽山の噴火災害を少し較べてみました．

宝永大噴火は富士山の最後の噴火で，1707年（宝永四年）11月23日（現暦で１月初旬）午前10時ごろ大地鳴りとともに発生しました．その前10月４日に地鳴り，大地震があり断続的に続きました．前夜11月22日22時ころから地鳴り，大きな地震が起こり50回以上ほぼ連続的に地震が続き，そして大噴火となりました．噴火は富士山の南東八合目で発生，折からの西風に押されて噴煙は東へ東へと流れ御殿場市，足柄郡，箱根，小田原方面に約30°扇状に降り下り，日中でも真っ暗となりました．噴火は16日間続き御殿場では降灰が２m近くに，足柄郡でも１～1.5m積りました．東京でも３−５cm積りました．しかし，噴煙の流れは限定的で少し南の裾野市，また少し北の富士吉田市では降灰は少量でした．７億㎥の大量の溶岩や灰が噴出したマグマ型大噴火でしたが，幸いなことに噴火による直接の死者はほとんどありませんでした．しかし，御殿場，足柄地域では耕作地は完全に荒廃し，大雨のたびに河川に灰が堆積して氾濫，洪水が頻発しました．その結果，生活は困窮して多数の餓死者を出すに至りました．

今回の御嶽山の噴火の場合，９月10日ころに一時的に有感地震が多発しています．その後地震は減弱，微小となり，９月27日午前11時52分突然に大噴火しました．噴火は山頂剣ヶ峰（3067m）近くの南西側斜面５か所から発生し，南西の風にあおられて噴煙，墳石は北東方向，山頂方向に向かいました．多くの方が山頂付近から北東方向900m圏内で被害にあっています．噴火は40万㎥の噴出量（宝永噴火の750分の１）の小規模の水蒸気爆発であったにも係らず死者57名，いまだ行方不明６名の大災害となりました．

宝永噴火は厳冬期のことで幸いしました．今回の惨事は何と言っても季節と時間帯，天候が大きく影響しました．夏山の終り，紅葉の見ごろの好天の土曜日，正午ころと条件がそろいすぎてしまいました．引き込まれるような青空に噴煙のコントラスト，映像美が避難の初動に一瞬の隙をつくってしまったようです．この二つの噴火からの教訓を並べてみました．大きな噴火には前兆地震がある．高い山では偏西風の影響もあり西風が多い．石，灰，ガスなど噴火口東側が一般に危険である．最初の爆発が一休みしたら一刻も早く遠ざかれ．逃げる方向は風向きを考慮，一般には西側を目指すなどなど．

団塊の世代を中心に中高年の登山者が増加しています．夏山でも難易度はいろいろで，車やロープウェイなどを利用して気軽に楽しめる山もたくさんあります．余裕をもった計画かつ天候に気をつけ無理をしなければ心身の健康増進にも大いにおすすめです．しかし，大自然とのかかわり合い，交遊は今回のような災害と常にとなり合わせであることも決して忘れてはなりません．